

☆鶴岡市立京田小学校の実践

— 自分の命は自分で守る —

※ 京田小学校では、毎年6月16日に「避難訓練」と「新潟地震追悼式」を実施。1964年に起こった新潟地震で亡くなった方々への追悼の意を表すと同時に、地域ぐるみでいのちの大切さや防災の意識を再確認する機会になっています。いのちを見つめ、精一杯生きる心は子ども達にしっかり根付いています。残された人は、悲しくても笑顔で元気に生活することが何より大切だということを毎年確認し誓い合っています。



(児童代表の挨拶より)

・今から56年前の出来事を知り、地震は恐ろしいと感じた。コロナで世界中が大変な中、地震も各地で起こっており「自分の命は自分で守る」ことは共通している。私たちにできることは、どんなことにも真剣に臨むこと。亡くなった方の分も精一杯生きたいと思う。



(地震経験者の手記より)

・幼稚園の時のことはほとんど覚えていないが、新潟地震のできごとは脳裏にはっきりと焼き付いている。人間の力ではどうすることもできないものであっても、二度と悲惨なことを繰り返さないために日常の行動や心構えをしっかり持っていたい。

いのちを見つめ 生き方を考える

☆酒田市立鳥海八幡中学校の実践

— 夢と志を胸にいのちを輝かせる —

※ 鳥海八幡中学校では、「夢志 day」として先生方や講師の講話を聞くことで、人の生き方に触れ、自分の生き方を改めて見つめなおす機会を設けています。令和元年度は活動弁士であり、本校の校歌を作詞・作曲した佐々木亜希子氏からお話をいただきました。チャレンジ精神あふれる先生の生き方に刺激を受けたり共感したりし、自分の決意を新たにしている生徒が多く見られました。

(生徒の感想より)

・周りに合わせて一歩引いてしまうことがあったので、これからは一度自分が本当にしてみたいことを考えたいと思います。自分に任された仕事はとにかく責任をもって最後までやり遂げるようにします。

・「頼まれたものには受け答えろ」という亜希子先生の言葉がとても耳に入ってきた。進路で迷っていたが少し決心がついた気がする。自分が決めた道ならば、まっすぐに進むだけ。



・自分の才能に何があるかはわかりませんが、もし、素晴らしい才能があるとすれば、それを無下にせず挑戦することでこれから生きていきたいと思いました。

・鳥海八幡中学校の校歌を作ってくださった佐々木さんの想像力や込められた深い内容が素晴らしいと思いました。今回学んだことを夢に向けて生かしていきたいです。

